

支部代
報告(下)

生首切り攻撃と「答申」粉碎・中曽根打倒へ

「オ10回支部代(多)で決定された 当面する取り組み」について

勤労千葉は七月三十一日に第十回支部代表者会議を開催し、「当面する取り組み」について決定した。前号では監理委答申の内容について明らかにしたが、本号では答申の本質を明らかにするとともに、決定した「当面する取り組み」について報告する。

「答申」を見すえて闘う

監理委の「答申」は、貿易摩擦等、帝国主義間における矛盾の拡大により、追いつめられた日帝・中曽根がすべての矛盾と犠牲を労働者・人民に転嫁して生きのびようとするものであり、「戦後政治の総決算」を強行するための突破口の攻撃である。

「答申」は、「赤字」を口実に進めてきた「国鉄再建」の結論を「分割・民営化」に求めているが、国鉄経営を破綻に追いこんだ歴代政府・自民党、財界の責任を陰ペイし、新たな利権を提供するとともに、要員合理化と首切りを最優先させた国鉄労働運動解体が目的であることは明白である。中曽根は「支持率の高さ」を背景に、国鉄問題の強行突破を階級決戦の前面におしあげ、総裁三選を果たし、「国鉄」と「教育」で来年七月の衆参同時選挙に勝利し、長期政権維持・戦争国家化を成し遂げようとしている。

軍事費突出予算の強行、成田用水二期工事強行着工、破防法有罪判決、スパイ防止法強行策動はこのことを端的に示している。

われわれは、一九八五年七月二六日を期して、具体的生首切りとの対決をはじめ、国鉄労働運動の存亡をかけた、文字通りの決戦に突入したことを自覚し、闘う決意を打ち固めなければならない。この場合、労働運動内部にあって「骨身を削って働き、三本柱をクリアーすることが雇用を守る道」なる産報化路線のもと、「分割・民営化」に賛成するどころか、当局に勤労千葉や国労組合員の手切りを要求するファシスト集団「勤労本部」の首切りを要求するファシスト集団「本部」革マルの一掃なくして未来がないことを、肝に命じなければならない。

当面する取り組み

I、国鉄「分割・民営化」一十万人首切りの7・26監理委答申に抗議し、反合・運転保安確立を要求する8・5闘争の取り組みについて次の通り指

令する。

- ① ワッペン・名札闘争の貫徹
- ② 八月二日、十八時、千葉市中央公園で開かれる「国鉄」千葉県集会に最大限動員で参加する。
- ③ 八月四日、十一時、日比谷公会堂で開かれる「破防法国民集会」に積極的に取り組む。
- ④ 八月五日、始業（始発）時より十時まで、全組合員を対象とする非協力・安全確認行動を実施するとともに、全支部で職場集会を開催し、情勢と闘いの意義について意志統一する。

II、ワッペン、名札闘争を中心とする千鉄当局の凶暴化に対する闘い、

- ① 当局は「活用策」実施中の駅への助勤者について、名札着用を強制するとともに、要員機動センター設置を強行しようとする動きにあり、情勢を見きわめつつ対処することとする。
- ② 七月二二日、勤労「千葉地本」・革マル嶋田誠等は、千葉駅の夏季売店々頭において勤労千葉組合員を挑発し、一々二分の「口論」を「業務妨害」として千葉局、本社にタレこんだ。当局はこれに乗っかり、「処分」を策動しているが、意図的な組織破壊攻撃であり、徹底的に対決して闘うこととする。

III、その他

- ① 「東峰十字路被告三君を守る会」会費について、組合員一人当十円を目途に取り組むこととする。
- ② 第十回定期大会の成功にむけて、傍聴動員等の取り組みを強化する。

全力で闘いましょう！

8・2「国鉄再建」千葉県集会
8月2日(金)18時、千葉市・中央公園

8・4「破防法粉碎」国民大集会
8月4日(日)11時、東京・日比谷公会堂

8・5「非協力・安全確認行動」

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎